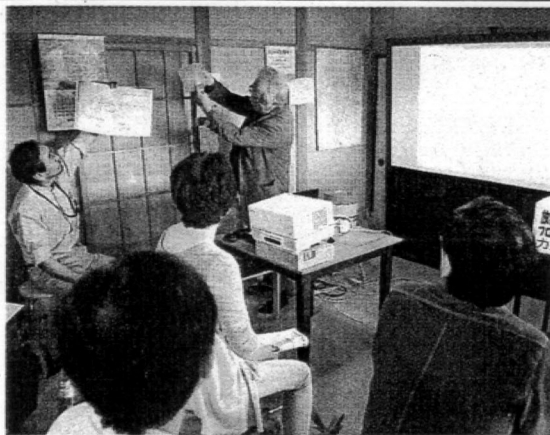


つくば市民放射能測定所

汚染の実態解明継続

開設1年 活動成果や課題報告

東京電力福島第1原発事故で放出された放射性物質による汚染の実態を明らかにしようと、県内で初めて市民による測定所「つくば市民放射能測定所」が開設して1年がたち、報告会が12日、つくば市妻木の同測定所で開かれた。測定所の利用者らが参加し、1年の活動成果を振り返るとともに、今後の課題を検討した。



利用者を前に測定方法などを解説するスタッフ＝つくば市妻木

測定所は昨年4月8日、同市の住民でつくる「茨城市民放射能測定プロジェクト」が開設した。食品と土壌を対象に検査を受け付けている。4月末までの約1年間で、市民から依頼された計435検体を検査。自家消費用の農産物などの依頼が目立ち、特に土壌、白米、玄米、タケノコが多かった。

共同代表の藤田康元さん(46)は「依頼者に任せている土壌の採取や検体処理の方法を標準化する必要がある」などと課題を指摘。今後は、放射性物質の土壌から農作物への移行傾向や同じ農地の作物の経年変化も、継続的に調べていきたいと展望を語った。

もう一人の共同代表、松岡尚孝さん(57)は、国が3月、自治体が実施している食品の放射性セシウムの検査で、重点検査対象品目を縮小するガイドラインを出したことに触れ、「国は(放射性物

質の放出を)なかったこととして、忘れさせてしまうのが本音ではないか。市民測定所として、やれることを続けて実態を明らかにしていく」と話した。

測定所はボランティアスタッフが利用料と市民からのカンパで運営。測定結果は全てホームページで公開。問い合わせは同測定所☎029(869)9296。(平野有紀)